

秋田大学教育文化学部附属小学校

公開研究協議会

2025年12月5日

# 自律した学習者が育つ 授業デザイン

鹿毛雅治

慶應義塾大学

教職課程センター／大学院社会学研究科

# 学びの場をデザインするための視点

## 個性の重視

一人ひとりの把握  
(知識、技能、適性など)

## 思考の重視

振り返りと自己評価  
メタ認知・自己制御学習  
問題解決:活用と探究

教師が  
トータルに  
デザイン

## 協働の重視

他者との関わり  
対話と学びあい

## 学びの重視

わからること・できること  
そのプロセスと成果

## 表現の重視

コミュニケーション  
多様なメディア

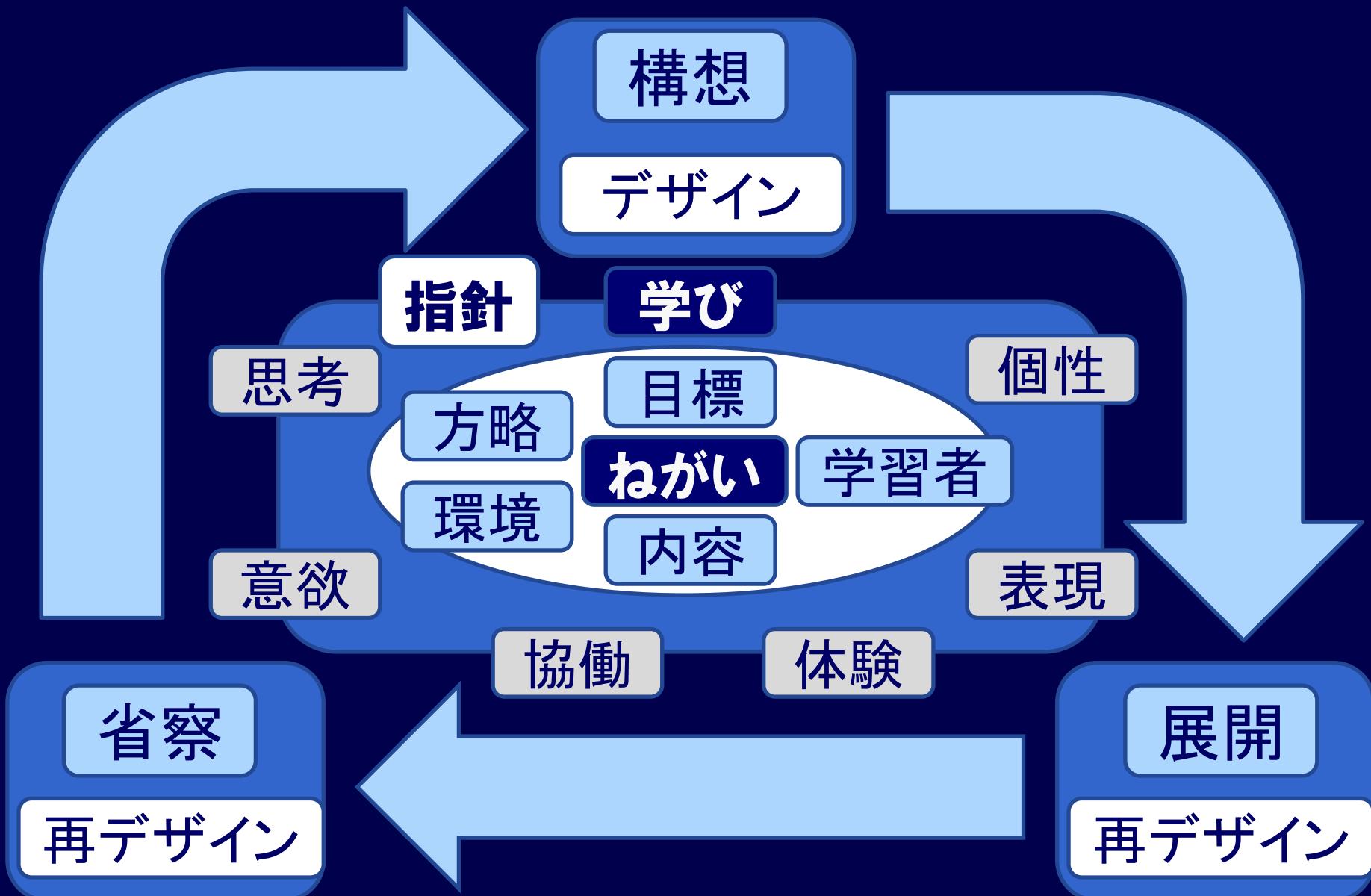
## 体験の重視

多様な活動  
五感をフル活用

## 意欲の重視

興味  
学ぶ意味・価値・必然性  
自信

# 学習環境をデザインする教師



# 「評価」から「みどり」へ

## 「徒競走」モデル



順位

点数

ランク

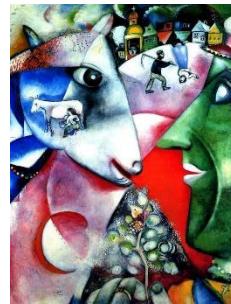
量的

優越感

劣等感

ナンバー・ワンを評価する

## 「絵画(展覧会)」モデル



持ち味

卓越さ

長短

質的

ひとり十色

自信・自尊心

オンリー・ワンをみとる

# 子どもの主体的な学びをみとるために

## ■教師の「居方」: 2つのモード

### マインドフル(mindfulness)

現時点で起きている出来事や体験に注意が向けられ、文脈や展望(perspective)に敏感で、外的事象を価値判断しようとするのではなく、新鮮な気づきに対して開かれた柔軟な心理状態  
=「あるがまま」を見る

### マインドレス(mindlessness)

固定的なマインドセット(mind-set)にとらわれて文脈や展望に気づかず、規則やルーティンに支配された心理状態  
=「固定観念にとらわれ」てみる